

# 横浜国立大学のあゆみ

## 開学までの道のり

横浜国立大学は、日本が近代国家としてあゆみを始めた明治初期、学制の発布に伴って、神奈川県内4か所へ設置された小学校教員養成所(1874年)を教育学部の起源としています。

その後、第一次世界大戦後の好景気を追い風として日本の工業が軽工業から重工業へと移り変わり、横浜・川崎に近代的な工場群が誕生しました。それまで貿易が産業の中

心であった横浜に工業の中心となるべき学校として横浜高等工業学校(1920年)が開設、理工学部の起源となります。経済学部の起源となる横浜高等商業学校(1923年)は、首都圏を襲った関東大震災の復興のシンボルとなるべく1925年の開校予定を早めて創設されました。横浜国立大学は、文明開化発祥の地において、社会の要請や時代の変革に応じ、その役割を果たし続けています。

## 創成期の大学を支えた人物

### 中村 順平 (1887年～1977年)

パリのエコール・デ・ボザールに学び、フランス政府公認建築士の称号を受けた中村順平は、帰国後、1925年に横浜高等工業学校建築学科の初代・主任教授として迎えられました。当時の日本における建築の高等教育機関は、技術優勢であったイギリスの影響下にありましたが、中村は芸術としての建築を主張し、ボザール流の教育を実践しました。その精神は現在も引き継がれ、芸術性に富んだ建築家を輩出し続けています。

名教自然の碑(登録有形文化財(建造物))の設計は中村によるものであるほか、横浜銀行旧本店壁面彫刻の一部が、本学建築学棟1階ロビーの壁面に復元保存されています。



## 開学と常盤台キャンパス

戦後の占領期・GHQの統治下において、教育基本法・学校教育法(1947年公布)に基づき、教育機会の均等が実施されます。大都市への大学集中を避け『1県1大学』として、横浜国立大学は学芸学部、経済学部、工学部を有する新制国立大学として開学(1949年)しました。第一次高度経済成長期における海外の技術革新の導入や企業経営・管理の導入を受け、新制大学として初となる大学院工学研究科(1963年)、東日本では唯一となる経営学部(1967年)を設置しています。

その後、神奈川県内に点在していた各学部が常盤台へ移転(1979年)しました。SDGsに先駆けて『人間の生存環境の創造・保全が前提』としたキャンパスは、創立30周年および統合記念事業植栽(1981年)が行われ、現在の緑豊かなキャンパスが誕生しました。

## 国際交流の増進

第二次高度経済成長期における輸出の拡大や海外旅行の中流層への浸透、新東京国際空港開港(現:成田空港、1978年)など、日本全土で国際化の気運が高まります。国際社会で日本の存在感が増していく中、横浜国立大学では日本への留学生増加を見据えて留学生会館(1981年)、国際交流会館(1982年)を開館しました。その後、国を挙げた「留学生10万人計画」(1983年)や「留学生30万人計画」(2008年)が実施されています。現在、横浜国立大学は、4つの国際交流拠点を設け、世界約80ヶ国・地域から留学生を受け入れ続けています。

- 1981年 留学生会館
- 1992年 峰沢国際交流会館
- 2010年 大岡インターナショナルレジデンス(国際交流会館を改築)
- 2019年 常盤台インターナショナルレジデンス

## 国立大学法人化、大学の变革

日本経済が低迷期であった1990年代、行政改革論議が盛んに行われ、文部科学省の内部組織であった国立大学にも变革を求める動きが出ました。国立大学法人法の施行(2004年)によって予算・組織面での規制が緩和され、各大学では自主的・自律的に大学運営を行なえるようになり、国家公務員としては難しかった民間企業との協力や世界的な外国人研究者の招聘が容易に出来るようになりました。

法人化に際し制定した『横浜国立大学憲章』は、社会情勢の変化を踏まえ、2023年3月、これまでの4つの理念に『多様性』を加えて改定しました。今、『多様性』は人類が様々な困難を乗り越える上で最も重要な概念であり、本学の現状と未来を鑑みた時、極めて重要との考えによるものです。

→ P.9 横浜国立大学憲章

## 文理融合、知の統合

21世紀を迎え、世界のグローバル化・デジタル化が急速に進んだことによって複雑化した課題を解決するためには、多角的な視点と技術力を兼ね備えた人材が求められています。

横浜国立大学では、教育分野における文理融合として、自然環境や社会環境との共生とそのリスクを科学的に分析して学ぶ都市科学部(2017年)、大学院の枠組みにとらわれず先進的な異分野融合の教育・研究を実践する大学院先進実践学環(2021年)を設置しました。

研究分野においては、ワンキャンパスである本学の強みを活かし、学部や大学院の枠を超え様々な分野の研究者が集結した研究組織として、総合学術高等研究院(2023年4月)を設置しました。

→ P.39 総合学術高等研究院の設置